

年 度 評 価 シ ー ト（令和7年度）

課名 文化政策課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団																								
1 履行状況																									
(1) 目標達成 ア 入館者数 目標値 30 万人（5 年間の累計総入館者数 150 万人） 実績値 230,638 人（前年度 286,668 人）、達成率 76.8%（前年度比 80.5%） 【参考】令和元年度（コロナ前） 実績値 255,328 人、達成率 85.1% イ 展覧会事業における来場者満足度（年間平均） 目標値 85%、実績値 94.7%（前年度 94.8%）、達成率 111.4%（前年度比 99.9%） (2) 施設利用状況 入館者数 230,638 人（前年度 286,668 人） 展覧会来場者数 119,605 人（前年度 149,917 人） (3) 人員配置状況 館長 1 人、副館長（総務課長兼務） 1 人 総務課：正規職員 2 人、契約職員 1 人、派遣職員 1 人、臨時職員 1 人 学芸課長 1 人 学芸課：正規職員 9 人（学芸員 7 人、広報 2 人）、臨時職員 1 人 (4) 業務実施状況 静岡市美術館条例第 11 条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。 ア 展覧会事業 <table border="1"><thead><tr><th>展覧会名</th><th>観覧者数</th><th>目標</th><th>達成率</th></tr></thead><tbody><tr><td>笠岡市立竹喬美術館名品展 うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界</td><td>10,741人</td><td>15,000人</td><td>71.6%</td></tr><tr><td>パウル・クレー展 創造をめぐる星座</td><td>24,916人</td><td>30,000人</td><td>83.1%</td></tr><tr><td>柚木沙弥郎 永遠のいま</td><td>19,935人</td><td>22,000人</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>きもののヒミツ 友禅のうまれるところ</td><td>13,486人</td><td>22,000人</td><td>61.3%</td></tr><tr><td>かがくいひろしの世界展</td><td>50,527人</td><td>27,000人</td><td>187.1%</td></tr></tbody></table>		展覧会名	観覧者数	目標	達成率	笠岡市立竹喬美術館名品展 うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界	10,741人	15,000人	71.6%	パウル・クレー展 創造をめぐる星座	24,916人	30,000人	83.1%	柚木沙弥郎 永遠のいま	19,935人	22,000人	90.6%	きもののヒミツ 友禅のうまれるところ	13,486人	22,000人	61.3%	かがくいひろしの世界展	50,527人	27,000人	187.1%
展覧会名	観覧者数	目標	達成率																						
笠岡市立竹喬美術館名品展 うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界	10,741人	15,000人	71.6%																						
パウル・クレー展 創造をめぐる星座	24,916人	30,000人	83.1%																						
柚木沙弥郎 永遠のいま	19,935人	22,000人	90.6%																						
きもののヒミツ 友禅のうまれるところ	13,486人	22,000人	61.3%																						
かがくいひろしの世界展	50,527人	27,000人	187.1%																						

イ 展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	102回	1,959人
展示解説	15回	348人
講演会、スライドトーク等	17回	1,971人

ウ 交流事業

催事名	実施回数	参加者数
ワークショップシリーズ	4回	91人
しずびチビッコプログラム	5回	108人
しずびオープンアトリエ（動画配信での実施を含む）	3回	515人
Shizubiシネマアワー	2回	150人
その他交流事業（企画展に関連する資料展示等）	2回	32,553人

エ 連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業等	14回	348人
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業	2回	96人

【検証・分析等】

事業全体を通じて、施設の設置目的及び基本理念を理解、達成するために明確な事業方針を定め、新たな試みにも積極的に取り組んでいる。

ア 展覧会事業

西洋美術、染織、絵本原画など、地域・時代・分野に富んだ多彩な企画展5本を開催し、質の高い展覧会を展開した。

また、重要文化財の継続的な公開実績を重ねるとともに、戦略的な広報展開や施設間連携、SNS活用により、県外来館者の増加や回遊促進、ファン層の拡大など、大きな成果を上げた。

加えて、バリアフリー対応や子どもを含む多様な来館者への配慮など、社会的包摂の視点を取り入れた展覧会運営にも取り組み、美術館の新たな価値創出に繋げた。

「笠岡市立竹喬美術館名品展 うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界」では、本展覧会にて重要文化財を2点展示したことにより、開館以来14回目の国指定品公開実績を重ねた。また、広報活動にも注力し、「日曜美術館アートシーン」では、当該施設初の長尺枠で展覧会が取り上げられたことから、放送後には来場者が増加し大きな反響を生んだ。

「パウル・クレー展 創造をめぐる星座」では、国内3会場のための展覧会であることに加え、最終会場であること等を広報した結果、県外からの来場者の割合が3割を超え（平均1.4割）、図録は、最終日に完売した。本展覧会は、企画者の黒田和士が西洋美術振興財団の学術賞を受賞するほどの、質の高い企画展を実施できた。

「柚木沙弥郎 永遠のいま」では、芹沢銈介と師弟関係であるなど、静岡市にもゆかりのある染色作家であったことから、芹沢銈介美術館と連携し、回遊促進を狙った企

画をしたところ、アンケート結果には、両館や由比の正雪紺屋を合わせて訪れた等の記載が複数あったことから、連携の効果を実感できた。毎展覧会、戦略的な広報を行っているが、立体的な展示空間や動きのある布地の表情は、写真や動画を用いたSNSでの広報と相性がよく、会期中にInstagramのフォロワーが2,000人増加し、総フォロワー数は1万人に達するなど、当該施設のファンを増やす努力が継続してみられている。

「きもののヒミツ 友禅のうまれるところ」は、友禅の老舗「千總」のコレクションを中心に「きもののヒミツ」を紹介した。本展では、重要文化財の作品を会期中、合計4点を公開した。そのうち、2点は今年度新たに重要文化財に登録され、本展はそのお披露目として指定後初公開となった。質の高い名作品を、より多くの来場者に理解してもらえよう、独自の作品解説や見どころパネルを作成するなど、作品への理解及び興味関心を引き出す努力をしている。

「かがくいひろしの世界展」は、絵本作家かがくいひろしの原画やアイデアノートといった資料などを紹介した。展覧会の内容にあわせ、手話動画や点字による解説パンフレットなどのバリアフリーツールの提供や、会期を通して展示室内での会話を許可するなど、こども達への初めての美術館体験の場を提供できるよう、様々な工夫を凝らした。展覧会の内容に加え、これらの工夫により、来館者層は乳幼児を中心としたファミリー層に加え、保育や特別支援等教育の現場に携わる人々の来館が目立ち、目標来館者数の約1.8倍の人数が来館した。社会的包摂の視点を取り入れた本企画展はあらゆる人に開かれた展覧会運営として大いに評価できる。

イ 展覧会関連事業

展覧会の内容と合わせて各分野のスペシャリストである講師の講演会、静岡市美術館学芸員によるスライドトーク等を実施し、「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目標とする」という静岡市美術館の設置目的が達成できている。

ウ 交流事業

交流（教育普及）事業は、学校や生涯学習センターからの団体解説など鑑賞教育と、多彩なワークショップシリーズを柱にした実技体験を中心に、自宅で楽しめる「おうちで！しずびオープンアトリエ」など、美術への興味関心を高める機会の提供に努めている。

エ 連携事業

各展覧会に関連し、文化施設や地域事業者等との連携事業を実施した。茶文化、食、工芸、図書館等、それぞれの展覧会テーマに関連する分野と連携し、各主体の専門性や特色を活かした取組を展開することで、展覧会の魅力向上を図った。あわせて、施設間の回遊促進や新たな来館者層の獲得につながるとともに、市民が多様な文化・芸術に触れ、関心を深める機会を提供することができた。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等） 【具体的な意見・要望の内容と対応状況】 意見等：なし 対応：なし 【検証・分析等】 利用者からの意見・要望は特になく、利用者対応を含めた施設運営は安定して行われていたものと評価できる。日頃から適切な管理運営が実施され、利用者満足度の維持につながっているものと考えられる。 【確認結果】 ○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。 3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価 （１） 利用者満足度調査 展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートを実施し、満足度調査を行った。 【調査結果】 展覧会への満足度 回答者総数：2,834 人 「満足」「ほぼ満足」の回答割合（全展覧会平均）：94.7% ・ 笠岡市立竹喬美術館名品展：93.2% ・ パウル・クレー展：93.6% ・ 柚木沙弥郎 永遠のいま：95.9% ・ きもののヒミツ：94.6% ・ かがくいひろしの世界展：96.3% 【検証・分析等】 全展覧会の平均満足度は 94.7%（前年度 94.8%）であり、目標値である満足度 85% を大きく上回り、前年度と同水準を維持したことは高く評価できる。各展覧会においても、すべて 90%を超える高い満足度を達成しており、来館者から良好な評価を得ている。 【確認結果】 ○：調査の結果が概ね良好である。 （２） 市民アンケート 施設の認知度調査のため、市内文化施設利用者を対象にアンケート調査を実施した。 【調査結果】 回答者総数 5,680 人、当該施設を知っていると回答した人：4,059 人（71.5%） 【確認結果】 ○：調査の結果が概ね良好である。 （３） その他の調査 施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。 【調査結果】 ① 「職員の対応」 81.6%

- ② 「清掃、整理整頓」 87.8%
- ③ 「案内表示、掲示板」 81.6%
- ④ 「開館時間・休館日」 83.6%
- ⑤ 「空調・明るさ」 81.6%

【検証・分析等】

5項目の平均値で算出した満足度は83.2%であり、すべての項目が高い水準であることから、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

指定管理業務についての収支状況については、チケット等収入の実績額が予算額よりも減額したものの、全体としては黒字となり概ね予算のとおりに執行されている。また、開催した展覧会において、助成金や制度の活用による費用負担の軽減や、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めた。今後も堅実な運営に期待したい。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業については、展覧会事業を柱として関連事業及び交流事業、連携事業を積極的に行った。重要文化財を含む充実した展示内容が展開されたことや、西洋美術振興財団の学術賞を受賞した質の高い企画展を開催されたことは、これまで当指定管理者が培った経験やネットワークの賜物であると評価している。

学芸員の知識や経験を活かし、図録や鑑賞ガイドの制作など独自の取組みを実施したり、静岡市美術館としてこれまでに構築したネットワークをもとに出品内容の充実を図ったりしたことは大いに評価できる。こうした取組みの成果として、観覧者の満足度も非常に高くなった。

また、事業内容の充実のみならず、広報面においても、常に幅広い世代や関心層への広報手段を検討していることを評価したい。SNSを活用した情報発信では、市民参加型の広報や、ターゲット層を綿密に調整し戦略的な広報を行った結果、各展覧会に対する注目を集めることができている。

また、効率的・効果的な広報活動を継続的に実施した結果、インスタグラムのフォロワー数が1万人を超えた。

「芸術文化の交流拠点」として、今後もより多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信し、人々が芸術文化の魅力に触れることができるよう様々な工夫を行っていくことを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。